

ANNUAL REPORT 2022



ターサ・エデュケーションと、
子どもたちを支援してくださっている
みなさまへ感謝を込めて

すべての子どもたちが未来にときめく社会に

NPO 法人ターサ・エデュケーション

活動報告書 2022

だから私たちは新しい社会をつくる。

「自分の人生は自分次第だ」

「きっと自分にもできるはずだ」

強い意志と自信を持てる子どもになっていく。

未来にワクワクし、今を一生懸命生きていける子どもになっていく。

人の温かさで溢れ安心して過ごすことができる居場所、

寄り添い伴走してくれる大人の存在、多種多様な経験ができる学び場。

そんな優しい支援が、子どもの笑顔と自信を自然に生み出していく。

みんなで、社会で、多くの子どもたちが未来へときめく社会を届けていく。

「子どもたちは未来の希望だ」

自信を持って言葉にできる社会を私たちは目指していく。

NPO 法人ターサ・エデュケーション 代表理事 市村ただみつ

群馬県前橋市で生まれ。母子家庭で育つ、山梨大学教育学部卒業後、高崎市役所子ども家庭課で児童福祉業務に従事し、母子家庭を取り巻く課題に危機感を抱き、2015年NPO法人ターサ・エデュケーションを設立。群馬県内でひとり親家庭や不登校の子どもたちへ居場所と学習機会を提供する活動を展開。



「私なんか生きている価値がない」

「僕が幸せになんかなれるはずがない」

絶望の言葉たちは、学校に行かずに家から出られない子ども、

家庭から離れ施設で暮らす子ども、

家事や兄弟の面倒に追われ学ぶ時間をつくれない子どもの頭の中を動き回る。

私たちが考える当たり前の生活とはかけ離れた暮らし。

彼らは望まぬ日々の中で孤立し、自信を失い、未来を諦めている。

社会は言う。

「子どもたちは未来の希望だ」と。

しかし、その言葉は彼らには届かない。なぜなら彼らは信じていない。

「きっと私たちは希望になれない」そう思わせてしまっているのが社会そのものだからだ。

こんな社会に希望はない。

ISSUE

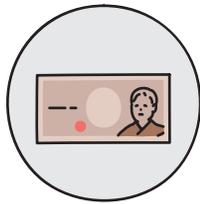
子どもが**孤立**することで、
意欲格差・自己効力感喪失してしまうこと

子どもの貧困率
11.5%

世帯年収に伴う
体験格差 **3倍**

子どもの貧困

世帯年収に伴う
学力格差
20%の開き



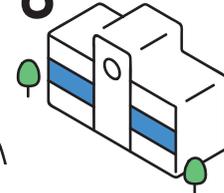
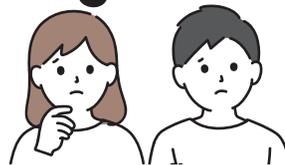
不登校

つながりが無い
38.2%

学校外の機関（フリースクール等）を利用して
出席認定を受けた
10.9%

不登校
児童・生徒数
30万人

前年度から
22.1%増加



社会的養護
4.6万人

大学進学率
2.9%

社会的養護

里親委託率
22.8%



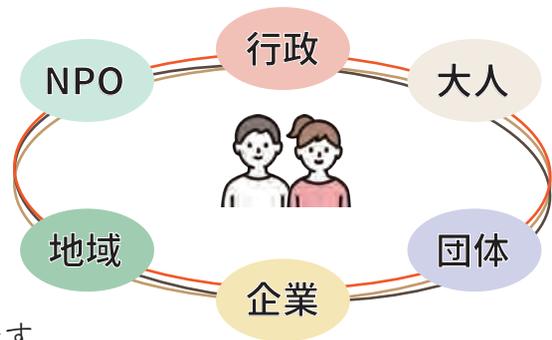
VISION

すべての子どもたちが 未来にときめく社会に

すべての子どもが自分の可能性を信じ、
未来の自分に期待できる社会をつくること



子どもの支援は未来への投資の考えのもと、
行政や企業、個人や団体問わず、
子どもを中心に置いた支援の輪が生まれ、
子ども一人ひとりが自分に自信を持ち、
自分の身の丈にあった人生選択を
行い、健やかに育つことができる
仕組みをつくる。そして、その先の未来では
受益者が担い手になり、将来にわたって
支援の輪が持続する好循環社会を目指します。



MISSION

子どもの可能性を みんなでフェアにする

みんなで、社会で、子どもそれぞれに必要な支援環境を整備する

01 まずは、直接支援

課題のある目の前の子どもたちに居場所や学習機会を提供し、子どもたちの自己肯定感や意欲、能力を育む

02 求む、支援の共犯者

情報発信や講演活動を通じて、課題の理解者や共感者を募り、支援の担い手を増やす。

03 みんなで協育

関係人口を増加させ、支援品質を高めるとともに支援範囲を広げ、より多くの当事者へ支援を届ける

04 未来のために。社会全体で子どもを育てる。

社会全体で子どもの支援に取り組む仕組みをつくり、どんな環境や状態においても、すべての子どもたちが未来にときめき、生きやすくなる社会へ

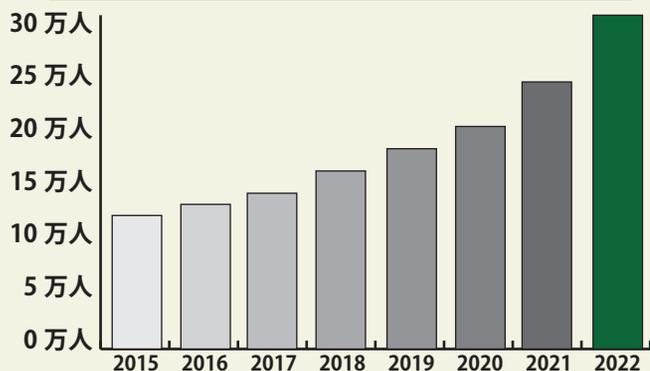
ついに
国も動き出した！

誰一人取り残されない学びの保証に向けた不登校対策

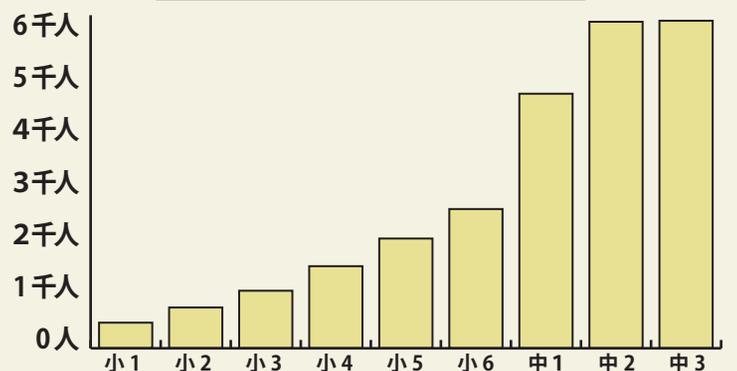
COCOLO プラン

小中学校の不登校児童生徒が約 30 万人になり過去最多を更新しています。また学校内外の専門機関で相談・指導等を受けていない小中学生が約 4 割を超える中、文部科学省が令和 5 年 3 月、不登校により学びにアクセスできない子どもをゼロにすること実現するために「COCOLO プラン」を作成し、不登校の子どもたちや保護者に、それぞれのニーズに応じた必要な支援を届けるための取り組みが示されました。このプランの実現のためには、行政、学校、地域社会、各ご家庭、NPO、フリースクール関係者等が、相互に理解や連携をしながら、子どもたちのためにそれぞれの持ち場で取り組みを進めることが重要となってきます。

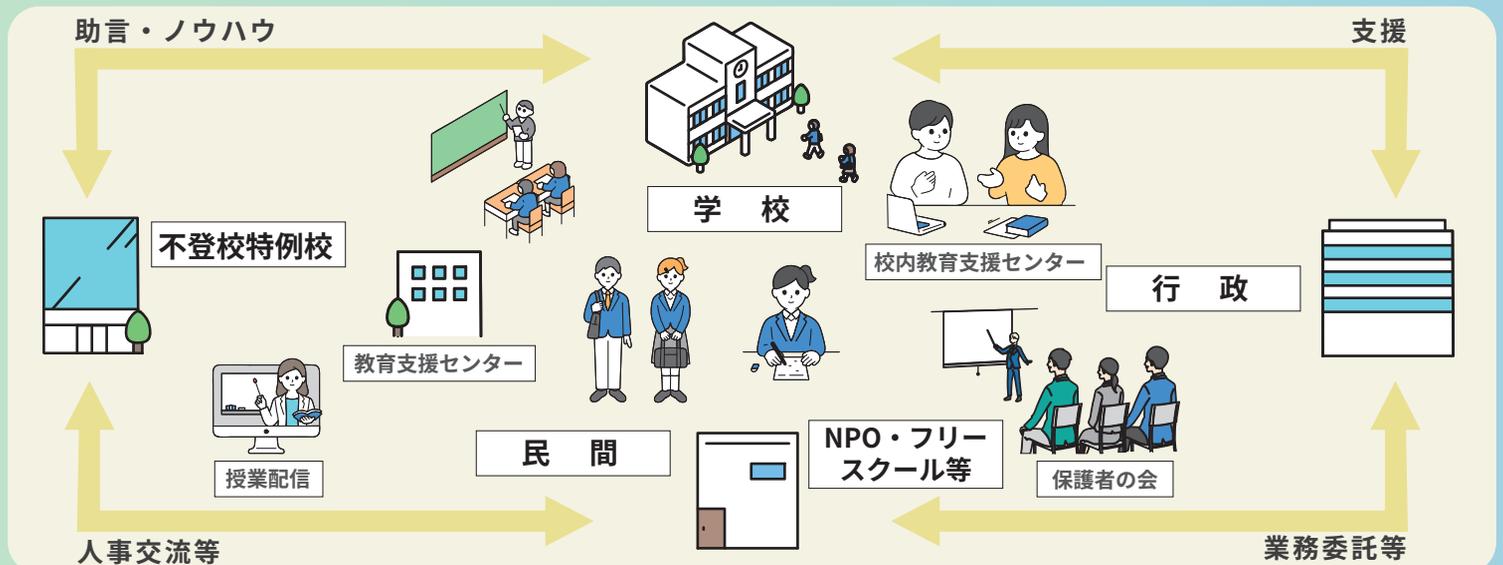
不登校児童生徒数の推移 小中合計 (2016-2022)



学年別不登校児童数 (R3)



これまでの不登校児童生徒への文科省の取組は、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーの配置、教員の資質向上や人員確保、指導方法や指導体制の工夫によるわかりやすい授業などの、学校機能を強化することで解決を図ることに重きを置いた取組だったのに対し、今回示されたCOCOLOプランでは、これまでの取組に加え、**子どもたち一人一人のニーズに応じた多様な学びの場や居場所の確保のため、学校外のフリースクールやNPOなどとの連携の強化を図ること**や、こども家庭庁と連携し、身近な地域で、人とつながり、学びに向かう土台作りや様々な体験活動ができるよう、学校外での多様な居場所づくりを広げることなど、学校外における、不登校児童生徒やその保護者の支援を推進しています。そのため、**今後フリースクールを必要とする子どもたちの数も増えることが予想され、フリースクールの役割がますます重要になってきます。**



～ COCOCLO プランが目指す 3つの姿～

1. 不登校児の児童生徒すべての学びの場を確保し、 学びたいと思ったときに学べる環境を整える

\\ PICK UP // 一人一人のニーズに、応じた多様な学び場の確保



- 不登校特例校の設置（現在 21 校、全国に 300 校の設置を目指す）
- 校内教育支援センター（教室以外での学校内のスペシャルサポートルーム等）の設置の促進
- 教育支援センターの強化
- 民間のノウハウを取り入れた不登校の児童生徒への支援が行えるよう、**NPO やフリースクール等との連携強化**（社会的自立に向けた連続した学習の確保）
- オンラインによる支援機能の強化

2. 心の小さな SOS を見逃さず、 「チーム学校」で支援

\\ PICK UP // ICT を活用した心や体調の変化の早期発見を推進



- SOS をキャッチした後、教師やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭、学校医等が専門性を発揮して連携し、支援方法を確立
- こども家庭庁とも連携し、子どもたちと保護者を包括的に支援するため、必要な福祉部局と教育委員会の持つ子どものデータを連携し関係者で共有
- **不登校児童生徒の保護者が有益な情報を得られるよう、相談窓口を整備し、教育支援センターやフリースクール等に関する情報を提供**

3. 学校の風土の「見える化」を通して、学校を 「みんなが安心して学べる」場所にする

\\ PICK UP // 学校の風土や雰囲気을把握し、学校運営を改善



- 子どもの声を聞きながら学校の風土を「見える化」して、学校を、みんなが主役になってみんなが安心して学べる場所にする
- 児童生徒が主体的に参加した校則等の見直しの推進
- 一方通行型でない、子どもたちの特性に合った柔軟な学びの実現
- いじめ等の問題行動には、こども家庭庁と連携し、毅然とした対応の徹底
- 障害や国籍言語等の違いに関わらず、色々な個性や意見を認め合える環境の整備

不登校ワークショップ事業

SAME BOAT

～不登校親子のつながりを支援する～



SAME BOAT とは？

学校に行きづらさを抱えている子どもとその保護者を対象に、当事者同士がゆっくりとつながる機会を提供するイベントです。2016年から計10回、延べ300組以上の群馬県内の親子にご参加頂いています。



参加対象の方

不登校など、学校に行きづらさを抱えている20歳以下の方及び保護者



どんな人が参加した？

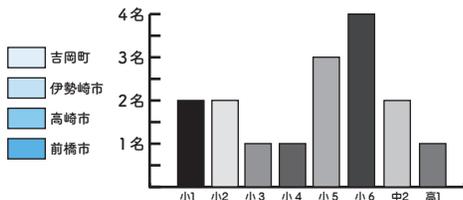
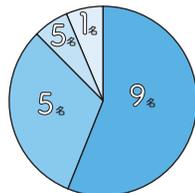
16組

親子

34名

12名

一般



プログラムの特徴



point

1

同じ状況の当事者同士と過ごせる子ども・保護者、それぞれが同じバックグラウンドの当事者と時間を過ごすことで安心感が生まれます。

point

2

一人ひとりに丁寧に寄り添う子どもたちとは、一人ひとりにボランティアが寄り添い時間を過ごします。今の気持ち、どう過ごしたいのか？に丁寧に伴走します。

point

3

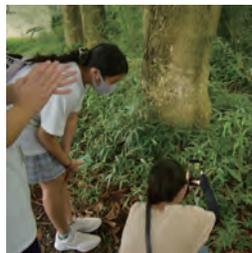
自然豊かな森で様々な体験を普段は踏み入れることの無い森で、様々な体験をすることで、落ち着いた気持ちを育てていきます。

当日のようす



◆◆◆ 子どもプログラム ◆◆◆

大人2名子ども2名のグループを作り野外散策を実施しました。散策コースにはなぞなぞやパターゴルフなどの体験ブース、花や植物を見つける「植物ビンゴ」を用意し、楽しく笑顔で参加している様子がありました。



◆◆◆ 親・一般プログラム ◆◆◆

教育系 YouYuber の葉一様をお招きし、「学び場に優劣はあるのか」というテーマで講演をして頂きました。講演後の質問会や交流会では保護者の方々からたくさんのご意見・ご質問を頂きました。



参加者の感想

仲間が
出来た

80%

参加して
楽しかった

100%

参加して
満足した

100%

子どもの感想

仲良くなれるか心配だったけど一緒に遊んだりして仲良くなれた。

場所がわからなくなった時、優しく教えてくれたり色々なことを褒めてくれて嬉しかったし、楽しかった。

みんなで一緒に散策ができて楽しかった。またイベントに行ってみるのに会いたいと思った。

子どもが楽しんでいる姿を見てとても嬉しかった。学校に行かない選択肢も悪くないかなと思えるようになりました。

親の考え方が変わり、子どもに接する態度も変わるような気がしました。

保護者の感想

親同士で話す機会があり、悩みつつも最善の道を探していて私も頑張ろう！と思えた。

一人じゃないし、外に助けを求めて良いんだと思えた。不登校に対して後ろめたく思わなくて良いんだと思えた。

フリースクール運営事業

こらんだむ

~親子の新たな選択肢を支援する~



こらんだむとは？

ありのままの子どもを受け止めて、それぞれが自立に繋がる場を目指し、平成 26 年に前橋市表町に開所しました。学校に行きづらさを感じる子どもたちが安心・安全に過ごせる「居場所」であり、日々様々な活動を通し、学ぶ「学び場」です。



通所対象の方

学校に行きづらさを感じている小中高生 (20 歳程度) までの子ども。
また、人との繋がりや居場所を必要としている子どもも対象となります。

フリースクールとして大切にしていること

フリースクールこらんだむは、3ステップを踏んで、不登校の子どもたちと向き合っています。

1人1人に寄り添う伴走支援を前提とした安心安全な居場所をつくり、ICT環境を活かした学習支援や大学・企業・団体と連携したプログラムを実施し、子どもの自己肯定感を育むとともに社会的自立に繋がるプログラムを提供しています。



こらんだむに通う子どもの今

部活動の雰囲気
よくなかった…
そこから学校にも行きづら
さを感じるようになった

夜眠れないし、
朝起きられない。
何だかあからないけれど、
不安だった

学校は疲れちゃうし、
つまらない。
学校はうるさすぎて
落ち着かない。

子どもたちの様子

Mina で作品販売体験



子どもたちが制作した作品販売会を、アーツ前橋ミュージアムショップ Mina で実施しました。子どもたちのアイデアで作られた、個性豊かな作品を多くの方々に手に取っていただき、社会との繋がりを感じられる体験を行うことができました。また、ショップでの接客体験を通じ、働く意味についても考えられた体験となりました。

英語で RPG プログラム



外国籍のボランティアスタッフにご協力いただき、英語を使った TRPG(テーブルトーク・ロールプレイングゲーム)を行っています。キャラクター設定を子ども自身で行い、みんなでストーリー選択をしながら進めていきます。英語に子どもたちが大好きな TRPG に取り入れ、楽しみながら外国語に親しむ事の出来るプログラムです。

こらんだむの一日



みんな集まれ！

「おはよう」スタッフ
と元気な挨拶を交わ
し、1日がスタート！

10:00



それぞれランチ

「いただきます！」
楽しいランチタイムに
会話も弾みます。

12:00

13:00

11:00

フリータイム

子どもたちが
自分で活動を決めて
自由に過ごします。



13:00

プログラムタイム

子どものニーズに合わせ、多彩な内容で
実施しています。子どもが主体的に進め
られるようスタッフもサポートします。



太田校スタート！

フリースクールこらんだむは太田市と連携し、全国でも数少ない官民連携のフリースクールを令和4年9月に開校しました。私たちの支援ノウハウが詰まったフリースクールです。

住所

群馬県太田市高林東町 1302
太田市南ふれあいセンター小会議室内

開設時間

10:00 ~ 15:00 木曜・土日祝日休み





進学が
決まった
高校3年生男子

Tさん



生徒会に
挑戦する
高校1年生女子

Sさん

特別インタビュー企画

フリースクールこらんだむに通う子どもたちの今

代表の市村とフリースクールを利用する

2人の子どもが本音で語ります。生の声を是非お聞きください。



ターサ・エデュケーション
代表理事 市村均光

2人とも今日は時間を作ってくれてありがとうございます。今回は支援者の方々に是非こらんだむを利用している2人の声や想いを届けたい！ということでインタビューさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。



よろしくお願いします！

さていきなりだけど、まずこらんだむを利用したきっかけを教えてください。



僕が中学校3年生のとき、母親が見つめてくれて言われるがままに入りました。その時は自分の意志は特になかったかなあ..
不登校になって最初はどうなんかなーって思っていたけど、母親が「別に無理して行かなくてもいいんじゃない」って言ってくれて、そこから深く悩まなくなりました。



私は中1の時、お母さんが調べてくれて見つけてきてくれたから。

Tさんのお母さん、理解のあるお母さんだね。うちは、弟と妹が不登校を経験してるんだけど、その時、僕の母親は「なんで学校行かないのよ」ってうるさく言ってたし、僕も、母親が僕たちのために一生懸命働いてくれるのを知ってたから、弟と妹に「学校は行かなきゃだめなんじゃない？」って当時は思ったな。



いや、最初は少し言われたかも。でも、無理にいかなくていいよって言ってくれたから、気にせず悩まなかったかなあ。

こらんだむの最初の印象はどんな感じだったか覚える？



うーん、あんまり（笑）あの頃は特に何も考えてなかった気がするから特に覚えてないかな。



スタッフの大人の人が3人くらいわあってやってきて、ほかの男の子も一緒にゲームをしたの。緊張したけど楽しかったな。いつも一人でいたから、年代の近い子と一緒に遊べて嬉しかったのを覚える。あとは、一人でいても、周りで人が話してる声とかが聞こえてくるから、寂しくなくてよかった。誰かがいる安心感があった。

現在まで、二人とも約4年こらんだむに通ってくれてるけど、4年も来られてる理由ってなんだろう？



最初の頃は特に、何も考えてなかったんだよね、とりあえず行ってただけ。でも、とりあえず行ってたらたまたま友達ができて、目的が変わってきたかな。友達に会いに行くためにこらんだむに行こうって。

つまり場所というより、人だね。旅行と一緒にだね、どこに行くかより、誰と一緒かって大切だったりするよね。



そうですね。当時は学校に行っていなかったから、もともといた友達とも接触がなくなっていったから、新しくできた友達が同期のようで、それが大きいですね。



私は、自分からあまり話しかけられないから、スタッフから話しかけてくれるのがありがたいな。一人で家にいるより、ここにいる方が寂しくなくていいなって。

ボランティアさんたちとの交流については、どうだった？



僕はあんまり自分からは関わっていなかったかな、話しかければ話すっていう程度。

色々な人がいて面白い人もいるし、話しかけやすい人が多かったかな。悪い人がいないという印象。

ボランティアさんより同世代同士の方が話しやすい？



それはあるかな、話しかけてきてくれると話しやすいし、嬉しい。あとは、最近は小学生とか、すごい年下の子たちに関わりも生まれたり、そういう世代を超えた関わりがもてるのはこらんだむに来てるからこそかなって思う。

こらんだむでの印象に残ってることや企画、イベントはありますか？



うーん、あんまり企画とか参加してこなかったからなあ。でも参加しなくても自由でいいっていうのは本当に良かった。みんなで企画したイベント、例えばクリスマス会とかの月1行事とかで集まるのは楽しかった。

ただ、毎回毎回プログラムに参加するのはしんどいし、参加を強制されるのはちょっと嫌、ボランティアさんがせっかく色々準備してくれたから参加しないと悪いかなって思って参加するのはちょっと違うなあ思うこともあるんだ。

そうだね、その気持ち分かる。

でも、その気持ちを持てるTさんは素敵だな。その部分は、今後のこらんだむの課題でもあるね。



印象に残ってる場面は、日常かな！何気なく過ごしているところ！

私も、みんなでがやがやする日常が楽しかった。あとは、お菓子作りが楽しかったな。楽しいしおいしいし（笑）

今の自分とこらんだむに通い始めた頃の自分を比べてみて、何か変わったことはありますか？



コミュニケーション能力が明らかに上がった気がします！昔から、仲のいい人達とはしゃべれてたけど、そこまで知らない人だったり、初対面の人への苦手意識がなくなってきた。ゲームとかしていると自然と話せるようになった。最初の頃は、初対面の人と話すことは苦手だったし、そもそも人と話すのがあまり好きじゃなかったから。

私も、人としゃべれるようになった！相手の理解もできるようになったなあ。色々な人といることがいい経験になって、だいぶしゃべれるようになった。

素晴らしい。そのために、これからもこらんだむも発展していかないとだね！

最後に、こらんだむに入会を考えてる人や、今学校に行けなくて悩んでいる人へのメッセージをぜひ！



学校に行けないなら無理して行かなくていいと思うし、行こうが行くまいが、立場的なものはさほど変わらないんじゃないかな。僕が大学の面接を受けることができて、元のレベルに戻れるってことは自分が証明できたから、自分のペースでやればいいと思う。

親たちへのメッセージは、一回待ってあげることが大事かなって思う。親にとって、急に子どもが学校に行かなくなったらパニックになるのが当たり前だと思う。でも本人にとっては急ではなくそこまでの過程があるから、無理矢理学校に行かせないであげてほしい。学校に行かない決断を子ども自身がするのは結構大変なことだから、出来ることなら、その決断の後押しをしてあげられたら子どもは嬉しいと思う。

孤独じゃないっていい。ここには必ず誰かいてくれるから、安心できる。あとは学校じゃできないことができる。お菓子作りとか！（笑）私が来こらんだむに来続けた理由は、がやがやできて嬉しくて、寂しくないから。一人でいて寂しかったら、こらんだむに来るといいと思う。

お二人とも、今日は貴重な時間をいただき、色々な思いを聞かせてくれてどうもありがとうございました！



その他事業

私たちが取り組む事業を紹介



ハンズ

群馬県母子寡婦福祉協議会と連携し、ひとり親家庭の小中学生を対象とした居場所型学習支援事業の運営を高崎市中央公民館内で毎月第2・4土曜日に実施しました。参加する子どもたちが「また来たい」と思ってくれるような居場所づくりを大切にしながら、1人1人に寄り添う個別学習サポートを提供しました。

また、親子交流イベントとして、宝探しBBQやマジシャンを招いたクリスマス会等を企画実施し、当事者間の交流機会をつくることができました。

令和4年度はボランティアを中心に従事者13名で、15名の小中学生に支援を行いました。



子どもたちの変化



児童、一人ひとりに寄り添うサポート

学習だけでなく友達と楽しい時間を過ごせた。

宿題などを確認して学習習慣をつけることができるようになった。



多くの子どもたちがこの場に集います

少しでも学習するようになった。

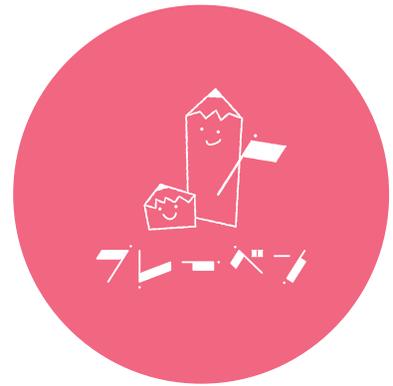


定期的に交流会も実施
クリスマス会の様子

物事に集中できるようになった。

フレーベン

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け約2年間中止となっておりましたが、令和4年度は1名の中学生と学習支援ボランティアをお繋ぎすることができ、23回支援を行いました。学習支援ボランティアが指導できる科目と子どもが指導を希望する科目をマッチングし、効果的な学習サポートを行うことができました。今後は支援対象児童を広げるために、引き続き学習支援ボランティアの確保に努めながら、研修プログラム等も整備していきます。



個別支援の様子



実施施設である地行園様より感謝状をいただきました。

ノートムービーズ

インターネット上で教員免許所有者が撮影した学習動画サイトを引き続き公開し、令和4年度は36,165回の視聴回数がありました。今後も子どもがつまづきやすい箇所を中心に新しい動画を撮影し、順次公開していくことで、子どもたちの自主学習サポートに取り組んでいきます。



2022年度 ご支援のお礼

多様な機関と連携して、支援の枠組みを実現



前橋ロータリークラブ様 よりご寄贈をいただきました。

前橋ロータリークラブ様より、こらんだむに通う子どもたちの多様な学びを支援するための物品を寄贈いただきました。また、代表の市村が前橋ロータリークラブ様の例会にて、お礼として講演を行いました。

寄贈内容

ハンドベルセット、机、椅子
プログラミングトイなど

計 **24** 品



前橋RC まえばし
ロータリークラブ
MAEBASHI ROTARY CLUB RID2840

生協パルシステム群馬様 より助成金をいただきました。

生活協同組合パルシステム群馬様が創立20周年を記念し創設した「市民活動助成金」に採択されました。いただいた財源は私たちが毎年実施しているイベント「SAME BOAT」事業に活用させていただきました。

助成内容

不登校ワークショップ事業
「SAME BOAT」の運営費用

計 **30** 万円



pal*system
Gunma

株式会社壺番屋様 よりご寄贈をいただきました。

株式会社 壺 番 屋

当法人が実施する学習支援活動で利用するために、寄贈をいただきました。本寄贈は「一般社団法人 全国子どもの貧困・教育支援団体協議会」を通じて、「学習支援環境整備プログラム supported by 壺番屋」として寄贈いただきました。株式会社壺番屋様では、長期経営方針「壺番屋長期ビジョン 2030」において、未来を担う子どもたちへの支援に力点を置いた社会貢献活動を実施していく方針を掲げておられます。

寄贈内容

学習環境を整える冷暖房器具 学習をサポートするコンピューター
ワークテキストブック等を印刷コピーする コピー機・プリンター

計 **8** 品

「もう、ダメだ」

居場所を失い
孤立する
30万人の子どもを
救いたい。



<https://readyfor.jp/projects/tasa-education>

経済的な理由によりフリースクールの利用を諦めさせない

マンスリーファンディングを実施

「不登校児童生徒が経済的な理由によりフリースクールの利用を諦めさせない環境づくり」を目的に、2023年2月19日（日）～2023年3月31日（金）の期間にマンスリーファンディングを実施いたしました。目標支援者数は100人、いただいた寄付金は維持費・管理費・教材費等の利用することを想定して実施いたしました。

応援コメントの紹介



教育 Youtuber 葉一様

私自身もいじめを経験し、ある教師から受けた揶揄から学校に行きたくなかった時期がありました。子どもたちに「あなたはあなたでいいんだよ」と届けするためには、フリースクールのような場所が必要です

NPO法人 不登校新聞社 石井志昂様

私も不登校を経験し、その後大人になってから20年間にわたり、不登校を取材してきました。当事者経験と取材を経て行きついた答えは、「学校以外の選択肢も必要」だという点です。



2023.3.7

上毛新聞社
掲載 紙面



マンスリーファン
ディングを通じて、

62

名の方に、サポーターへ
なっていました。

あなたも

TASA EDUCATION MEMBER

ターサの仲間になろう！

「一緒に社会創りませんか？」

私たちターサ・エデュケーションでは、一緒に活動する仲間を募集しています！

総勢 200 名以上の仲間が、私たちの団体に関わっています。多様な関わり方があるからこそ、自らが選んで活動できることが魅力です。ぜひ、あなたの力を子どもたちのために貸してください！



寄付を通じて支援

DONATION Member

都度寄付や月額寄付を受け付けております。寄付決済プラットフォームよりお申込みください。寄付者限定特典も準備しております。

<https://syncable.biz/associate/tasa-education/donate>

当法人では、決済プラットフォームシンカブルを通じて寄付を受け付けております。



Syncable



クレジットカード対応ブランド



寄付者 特典

- ◆実績報告書を送付
- ◆実績報告会無料招待
- ◆ボランティア情報を優先案内
- ◆オリジナルステッカーを送付

VOLUNTEER Member

ボランティアで支援



当法人が運営する活動にて随時ボランティアを募集しています。空いた時間に楽しく！子供と関わってみませんか？ボランティアプラットフォーム「アクティボ」より、確認の上お申込みください。

募集ページ：

<https://activo.jp/users/75342>



文末に添えて

日頃よりご支援ご協力いただいている皆様には大変お世話になっております。
NPO 法人ターサ・エデュケーションの市村です。

2022 年度は新型コロナウイルスが猛威を振るう中でも、少しずつ日常が取り戻されてきた 1 年であったように感じます。ただ各家庭の歪みは大きく、今もなお厳しい生活環境の中で生活している子どもたちが少なくありません。さらには海外紛争の影響を受け、物価高騰が続く社会の中では、子どもたちの生活にも大きな影響を与えていることは間違いありません。

私たちは当初より「すべての子どもたちが未来にときめく社会」をビジョンに掲げ、子どもの貧困や不登校の問題に向き合いながら、学習機会と居場所を提供する活動に取り組んでいます。今まで 10,000 人を超える子どもたちと出会い、活動に取り組んできましたが、ようやく社会全体の中で、課題解決の重要性が理解され始めたと感じます。

例えば不登校という課題。

私たちが活動を開始した 2015 年は小中学校の不登校児童生徒は 126,009 人でしたが、2022 年度文部科学省より発表された数値は 244,940 人。約 2 倍に増加しています。

学校や教育委員会も従前より不登校対策に取り組み、スクールカウンセラーの配置など、年々支援体制は構築されています。しかし不登校児童生徒は減少するどころか、年々過去最多を更新し続けています。

こうした状況の中、県内各地でフリースクールを立ち上げる方が増え、「フリースクール」という存在の認知度も高まり、私たちが運営するフリースクールにも多くの問い合わせをいただき、さまざまな困難を抱える子どもに支援を届けることができるようになりました。支援した子どもは学校復帰や高校進学、大学進学を果たし、しっかり前を向いて進んでいます。

文部科学省も 2022 年度末「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」(COCOLO プラン)を取りまとめ、仮に学校に行かなくても子どもたちが学びたいと思った時に多様な学びに繋がることができるよう、フリースクールとの連携強化も明記しています。

不登校全体の中で「学校内外の機関等で相談・指導等を受けていない児童生徒」が約 4 割いる現状を考えれば、フリースクール利用者が増えることは決して悪いことではありません。むしろまだまだ多くの不登校児童が社会から孤立しています。一人でも多くの子どもたちが多様な学びと繋がり、自分らしく前向きに生きていけるような取り組みを広げていかなければなりません。

そんな思いから 2022 年 9 月、群馬県太田市に全国的にも珍しい、公共施設を活用する形態のフリースクールを開校しました。太田市に 2 校目を開校したことにより、今まで距離の問題から利用に繋がりがづかった東部地域の子どもたちに機会提供を図ることができるようになりました。

こうした新しい取り組みに挑戦できるのも、寄付やボランティアをとおして私たちの活動を支えてくれる皆様のお陰です。これからも一人でも多くの子どもたちが笑顔になり、巣立っていくための支援に粘り強く取り組んでいきますので、今後とも活動へのご理解と変わらぬご支援をお願いいたします。

特定非営利活動法人ターサ・エデュケーション
〒379-2117 群馬県前橋市二之宮町1291番地6

T E L 027-226-5243

M A I L info@tasa-education.com

W E B <https://tasa-education.com>

